

日本大学工学部紀要

投 稿 要 項

平成16年5月27日 制定

平成30年4月27日 改訂

工学研究所運営委員会

1 趣 旨

この要項は日本大学工学部紀要（以下「紀要」という）及び日本大学工学部紀要別冊（以下「紀要別冊」という）の内容、投稿、執筆などについての必要事項を定める。

2 投 稿 資 格

投稿者は日本大学工学部に所属している者に限る。ただし、共著者に部外者を加えることができる。

3 投 稿 原 稿

- ① 投稿原稿（以下「原稿」という）は和文、英文いずれでもよい。
- ② 紀要に対する原稿の区分は、次のとおりとする。
 - (1) 論文：通常の意味の一つの独立した原著論文である。
 - (2) 研究ノート：断片的ではあっても、新しい価値ある事実を含む論文で、著者又は著者以外の既往の論文に対する補遺・意見等も含まれる。
 - (3) 総合論文：著者が発表した複数の原著論文を関連づけ、一連の研究成果としてまとめて執筆したものである。
- ③ 紀要別冊に対する原稿の区分は、次のとおりとする。

研究報告：参考になるデータ等、研究成果をまとめたもので査読を要しないものや内部資金による研究費助成プロジェクト等の研究成果をまとめたものである。

4 原 稿 頁 数

- ① 紀要に対する原稿の区分の文字数および頁数は、以下のとおりとする。

| 区 分 | 論 文 | 研 究 ノ ー ト |
|-----|------------|-----------|
| 文字数 | 15,000文字程度 | 5000文字程度 |
| 頁数 | 20頁を目途とする | 4頁程度 |

*総合論文は、20頁を目途とし著者と工学研究所運営委員会で相談の上決定する。

- ② 紀要別冊に対する原稿の頁数は、4頁以下とする。

5 原稿の受付及び発行時期

- ① 紀要及び紀要別冊は9月、3月の年2回発行する。

投稿原稿は随時受け付ける。
- ② 紀要の分量上の制約により、同一投稿者からの投稿数が制限されることがある。

6 原稿の提出

- ① 申込書（様式1）1部とともに原稿を研究事務課に提出する。原稿の提出部数は、区分によらず、申込書および正原稿と合わせて電子データも提出する。ここで、正原稿とは所定の構成に従った文書、写真、図、表を含む電子文書である。
また、申込書は、各自工学部ホームページよりダウンロードする。
- ② 投稿の手順は、別紙1に示す「紀要の投稿・査読・構成手順」に従う。

7 原稿の執筆

① 構成

紀要の構成は、投稿区分（論文、研究ノート、総合論文）によらず「表題、著者名及び所属、英文概要、キーワード（3つ以上5つ以内）、本文、謝辞、参考文献、写真、図、表」を基本とする。紀要別冊の研究報告は日本大学工学部学術研究報告会の様式に従った構成とする。

② 書式

別途定める執筆様式に従う。ただし、研究報告については、日本大学工学部学術研究報告会の様式に従った電子媒体で作成し、投稿する。

以上

添付資料 執筆様式

日本大学工学部紀要へ投稿する論文，研究ノート，総合論文の原稿は，以下の様式に従って執筆する。

1 原稿を構成する以下の項目をその順番に従い，1つの文書ファイルとして作成する。
用紙サイズはA4版を原則とする。

a)表題，b)著者・所属，c)要旨，d)キーワード，e)本文，f)謝辞，g)図，h)表，i)写真

2 本文は和文または英文とし，和文，英文ともに英文表題をつける。

3 和文，英文ともに約300語の英文要旨をつける。要旨は本文と切り離しても論文の趣旨がわかるように作成する。

4 キーワードの選択については，関連学会の慣例に従い，3つ以上5つ以内作成する。

5 本文が和文の場合はフォントとしてMS明朝，MSゴシックを用いる。また，文章中の数値は原則としてローマン体を用いる。本文が英文の場合はフォントとしてTimes new Romanを用いる。ここで示した和文及び英文のフォントは原則であり，関係学協会の様式に従ってもよい。

6 用語は特別の場合を除き，文部科学省またはJ I Sで制定された学術用語集もしくは関係学会で定義された用語を用いる。

7 図・表・写真は次による。

① 図と表は，それぞれ別の通し番号を付ける。なお付録中のものは別の通し番号を付ける。同一番号の中の区分は（a），（b）……とする。

例 図1，図2（a），表1（和文論文中のもの），Fig.1, Table 2, Photo 3（英文論文中のもの）図1.A，表1. A（和文付録中のもの） Fig.1.A, Table 2.A（英文付録中のもの）

② 図，表には名称を必ず入れ，図では下側に，表では上側につける。

③ 図・表・写真はカラーとすることができる。

8 参 考 文 献

① 参考文献には通し番号を付記して，論文の最後にまとめて記載する。引用の方法は，本文中の該当語句の右肩に1), 2), 3)……で示す。

② 参考文献の記載の方法は，原則として次の形式によるものとするが，関連学会の慣例に従って記載してもよい。

論文の場合は，番号，著者，題目，誌名，巻，号，始ページ～終ページ，発行年

単行本の場合は、番号、著者、書名（版・巻があれば記入）、ページ、発行所、発行年

参考文献の記載例

1 雑誌の中の記事（論文）

- 1) 南 敏：画像符号化を展望する，信学誌, 71, 7, pp.658-662（昭63）
- 2) J. F. Kurose, M. Schwartz and Y. Yemini：Multiple - Access Protocols and Time - Constrained Communication, Comput. Surv., 16, 1, pp.43-70 (1984)
- 3) P. G. Spring：SDN - A New Approach to Business Networks, AT & T Technology, 1, 1, p.20 (1986)

2 単行本（全体を参照）

- 1) 畑 雅恭, 古川計介：PLL - IC の使い方, 150p., 産報（昭51）

3 単行本（一部を参照）

- 1) 押田勇雄：液体と溶液, pp.47-49, 岩波書店（1956）
- 2) 東京天文台編：理科年表, p.478, 丸善（昭和57）

- ③ 内外の雑誌の略し方は、関連学会の慣例に従うこととする。なお、日本大学工学部
紀要の英文名 *Journal of the College of Engineering Nihon University* の略し方は、
J. Coll. Eng. Nihon Univ. とする。